

「カンナ・プロジェクト」から生まれた言葉



2004年9月から

「カンナ・プロジェクト」 = 被爆地広島、爆心地820mでわずかひと月で咲いたカンナの花、しかし、広島の人たちはその事実をすっかり忘れてしまっていたのです。橋凜保は2004年原爆資料館でカンナの写真と出会い感動し、取材をして、物語りとしてカンナに再び命を吹き込みました。周知活動を展開する中で、未来に向けて、子供たちと一緒にカンナを植えています。カンナを植えながら、平和の花カンナの講演もしています。「カンナ・プロジェクト」は、非営利任意団体です。

2008年4月から

「カンナ大使校」 = 「カンナ大使校」として、カンナを「平和と希望」の象徴として育てる「カンナ・プロジェクト」展開しました。

「カンナ大使」 = 応援して下さいの皆様を「カンナ大使」と呼ばせていただいています。

「カンナ天使」 = 小さい子どもたちを「カンナ天使」と呼ばせていただいています。

2009年4月から

「カンナリレー」 = カンナの球根をパトンに「平和と希望」を繋ぎます。

2011年9月 & 2012年8月

「こどもカンナサミット」 = カンナリレーでつながった子どもたちが交流して、意見交換や友情を深めるためのサミットです。① 2011年9月(福島—東京) ② 2012年8月(石巻—広島)

2011年10月から

「カンナスマイル」 = 花が咲くことを「花笑み」と言います。花の枯れた冬を越して頂くために、カンナの「花笑み」に替えて、人の笑顔を東北の皆さんに届ける「1000スマイル! 忘れていません 東北の皆さん」を始動しました。

2013年3月から

「かんなちゃん」 = かんなちゃんは、平和な地球を見守り1945年からずっと宇宙にいました。戦争で原爆が落とされないように、唯一の被爆国日本の広島のかんなちゃんが頑張ってくれていました。かんなちゃんは原爆投下820mに1ヶ月で咲いた花です。カンナ・プロジェクトのマスコットです。2014年4月14日、かんなちゃんが長野県須坂市のゆるキャラになりました。

2013年5月から

「カンナこども夢プラン」 = 未来を作る子どもたちがカンナを通してできることを考えます。2013年5月から始めます。たくさんのプランが提出されています。7年後に実施するのプランも採用されています。子どもたちのアイデアを実践して、子どもたちに「夢は夢じゃない」を伝えることを目的とする教育的意味をもった取り組みです。

2013年7月から

「カンナロード」 = 町の学校から、通学路の人たちにカンナをリレーして、子どもたちと地域の人たちが一丸となって、「平和と希望」の花を咲かせる計画です。2008年に広島市立大州小学校に植えたカンナが、2013年、町の中に咲きました。

2016年4月から

「次世代カンナ・プロジェクト」 = 次世代を育てて3年。2016年4月から次世代カンナ・プロジェクトがスタートしています。活躍の場を提供したいと思います。そして、平和な未来を自分たちの手で、自分たちのアクションで創り上げてほしいと思います。「次世代カンナ・プロジェクト」は、非営利任意団体「カンナ・プロジェクト」の学生部門です。

2016年6月から

「GOOD怒！」 = 「Good job!」をもじってみました。カンナの根っこは、「怒」という精神です。「怒」って、相手の身になって考えたり、思いを馳せあったりすることなんです。

